

「絶句（漢詩の風景）」要点と解説 (期末テスト対策ポイント)

「絶句」基本情報

絶句 杜甫

江 ^ハ 碧 ^{ニシテ} 鳥 ^ハ 逾 ^ヨ 白 ^ク
 山 ^ハ 青 ^{クシテ} 花 ^ハ 欲 ^ス 然 ^{エント}
 今 春 看 ^ス 又 過 ^グ
 何 ^{レノ} 日 ^カ 是 ^レ 归 ^{ラン} 年 ^{ナラン}
 江 ^{コウ} は 碧 ^{みどり} に して 鳥 ^{とり} は 逾 ^{いよいよ} よ 白 ^{しろく} く
 やま ^{やま} あお ^{あお} は 花 ^{はな} は 然 ^も えんと 欲 ^{ほつほつ} す
 山 ^{さん} は 青 ^{あお} く して 花 ^{はな} は 然 ^も えんと 欲 ^{ほつほつ} す
 今 ^{こん} 春 ^{しゅん} 看 ^み す 又 ^{また} 過 ^す ぐ
 何 ^{いつ} れの 日 ^ひ か 是 ^こ れ 归 ^{きねん} 年 ^{ねん} ならん

絶句(ぜっく)

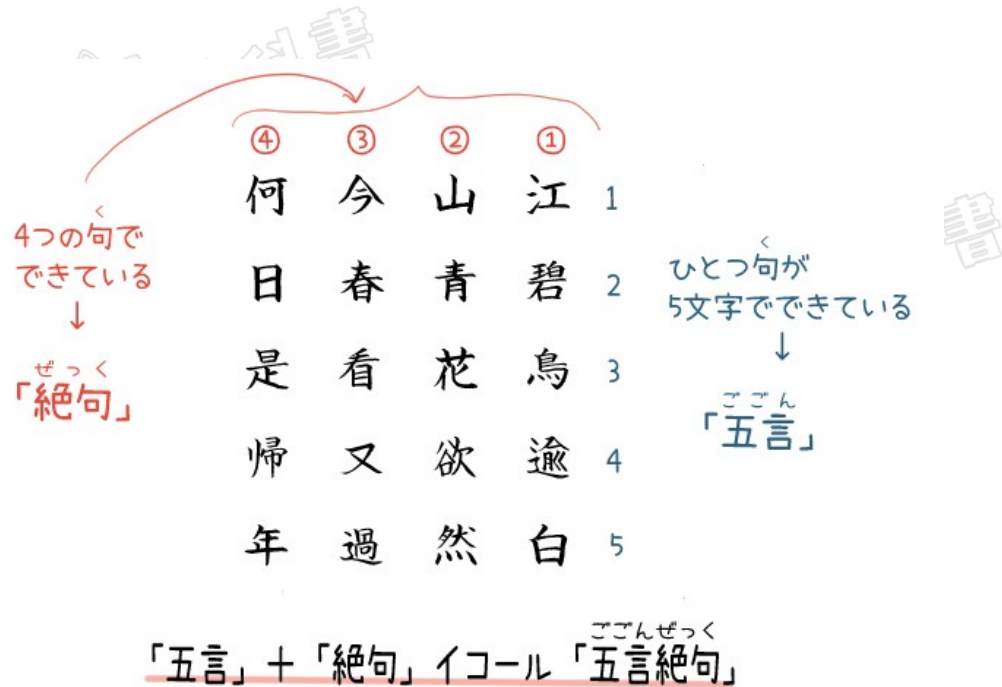
作者:杜甫(とほ)
 詩の形式:五言絶句(ごごんぜっく)
 ※杜甫は、唐代(中国の王朝の名前)に活躍した詩人



「絶句」テスト対策ポイント

テスト対策ポイント①詩の形式や工夫・技法について

形式について



「絶句」は、「春暁」と同じ「五言絶句」の形式で作られているよ。

詩の形式とは・・・

詩の形式は、「詩の形のパターン」みたいなもの。

ひとつの詩に、いくつの句（ひとまとまりの言葉）があるかとか、ひとつの句はいくつの文字で作られているか、とかでパターンが決まるんだ。

五言絶句とは・・・

「絶句」（この詩のタイトルではなくて、ここでは形式の名前のことだよ）というのは、「ひとつの詩が4つの句でできている」もののこと。

さらに、「ひとつの句が5文字できている」ものを「五言絶句」というよ。



「絶句」の詩は、4つの句でできているね。

1. 江 碧 鳥 逾 白
2. 山 青 花 欲 然
3. 今 春 看 又 過
4. 何 日 是 帰 年

さらに、ひとつひとつの句は「5文字」で作られているよね。
だから、「五言絶句」なんだね。

使われている表現技法について

「絶句」の第一句と第二句は、対句になっているよ。

対句法とは・・・

似た表現や、関係する表現を並べることで、リズムを作ったり、印象を強くする効果がある表現技法のこと。

江は碧（みどり）にして 鳥は逾（いよいよ）よ白く
山は青くして 花は然（も）えんと欲（ほっ）す

「江（川のことだね）」に対して「山」、
「碧」に対して「青」
「鳥」に対して「花」
「逾よ白く」に対して「然えんと欲す」

似た表現になっているのが分かるね。

工夫

「絶句」の第一句と第二句には、4つの「色」が使われているよ。

江（川）の「碧」

鳥の「白」

山の「青」

花は「赤」・・・と言いたいところだけど、そのまま「赤」とは書かれていないんだ。



「然」という字は「燃える」と同じで、「炎＝赤」を表しているんだよ。
こうやって色をたくさん登場させることで、色鮮やかな景色を表現しているんだ。

「絶句」テスト対策ポイント②漢字を読めるようになっておこう

「絶句」では、ちょっと難しい漢字が多く使われていて、テストでは「読み」を答えなくてはいけない問題が出ることが多いよ。

碧(みどり)・・・深く青い色のこと。「みどり」と読めるようにしておこう。

逾(いよいよ)よ・・・「ますます」という意味。

然(も)えんと・・・普通は「燃える」と書くよね。なので、注意が必要。

看(みすみ)す・・・見ている間に、という意味。「みすみす逃した」というように言ったりするね。

又過(またす)ぐ・・・また過ぎてしまうという意味。

何(いず)れの・・・いつとは言えない近い未来のこと。

是(こ)れ・・・「これ」という意味

帰年(きねん)・・・帰ること。「絶句」では、作者の杜甫が故郷へ帰ること。

「絶句」テスト対策ポイント③それぞれの句の意味を理解しよう

第一句

「江は碧にして 鳥は逾よ白く」という句は、

「川が深い青色をしている。なので、その川にいる鳥（水鳥）がますます白く見える」という意味。

第二句

「山は青くして 花は然えんと欲す」という句は、

「山は青（あお）と茂っていて、花は燃えるように咲いている」という意味。



第三句

「今春看す又過ぐ」という句は、
「今年の春も、見ているうちにまた過ぎてしまう」という意味。

第四句

「何れの日か是れ帰年ならん」という句は、
「いつ、故郷へ帰れるのだろうか」という意味。

テーマ（主題）は？

「絶句」は、作者である杜甫の故郷での戦争が激しくなって、友人のいる「成都」というところで過ごしていたときに作られた詩なんだ。
日本でも戦争の時に、避難するために地方へ行っていた「疎開（そかい）」という制度があったけど、そういう感じだね。
成都は、「絶句」の第一句と第二句に書かれているように、とても色鮮やかで美しい景色のところなんだけれど、杜甫は、故郷に帰りたと思っているんだね。
「今年の春も、みすみす過ぎてしまう・・・いつ故郷へ帰れるのだろうか」と、異郷の鮮やかな景色の中で、いつ故郷に帰れるのか、と悲しむ気持ちがテーマだよ。

「絶句」テスト対策ポイントまとめ

まとめ

- 絶句の詩の形式は「五言絶句」
- 作者は唐代の詩人「杜甫」
- 第一句・第二句では「対句法」が使われている
- 第一句と第二句では、色をたくさん登場させて、色鮮やかな異郷の景色を表現している
- 難しい漢字の読みを確認しよう！
- それぞれの句の意味を理解しよう！

